

紀州鉄道との共催イベント『越中おわら風の盆～五箇山～富山への旅』

【旅程】

9月2日(水)

東京駅(10:32 発)⇒《新幹線》⇒富山(12:40 着)＝「瑞龍寺・高岡大仏」見学(14:00～15:30)＝夕食「富山湾寿司・石松寿司」(16:00～16:50)＝「越中八尾おわら風の盆」演舞会指定観覧席・会場:八尾小学校(18:50～21:00)自由時間(21:00～22:00)＝砺波ロイヤルホテル(22:30～23:30 頃着)(泊)

9月3日(木)

砺波ロイヤルホテル(9:00 発)＝「五箇山・相倉合掌造集落」世界文化遺産登録の文化財保護地区を自由散策(10:00～11:30)・昼食「茶屋まつや」里山ならではの郷土料理昼食(11:30～12:20)＝「源 ますのすしミュージアム」江戸から続くますずしの老舗工場見学&買物(13:30～14:10)＝富山駅(15:36 発)⇒《新幹線》⇒東京(18:12 着) 解散



「越中おわら風の盆」案内状



紀州鉄道ツアーコンシェルジュ
赤い旗を持った菊地さん

紀州鉄道との共催イベントへの案内を受けて、参加申し込みをした。前々から、一度は見てみたいと思っていた「越中八尾おわら風の盆」だったのと宿泊するホテルが大和リゾートの砺波ロイヤルホテルだったので、楽しみにして当日を待ったのだ。

「越中八尾おわら風の盆」は、雨が降った場合には踊りが中止(小雨決行)ということだったので心配していたが、何とか大丈夫そうとの予報を信じて自宅を出発。ただ自宅から最寄り駅までは雨であった。

東京駅 10:32 発の北陸新幹線だが、集合時間が 9:40 南乗換口の向かいサウスコート付近ということだったので、遅れないよう早めに到着。今回のイベントのガイド役の紀州鉄道会員事業部ツアーコンシェルジュの菊地千夏さんがおなじみの赤い旗を持って立っており、もう数名の参加者が集合していた。菊地さんに確認すると、今回の参加者は、15名で、東京から10名、大宮から4名、名古屋から1名(富山で合流)ということだそう。

予定通り、9:40 に全員集合。人が通らない場所へ移動し、菊地さんから今回のイベントの注意事項等が知らされ、その後自己紹介。ご夫婦(Kさん、Nさん、Tさん、Yさん)が4組、単独が僕とMさんの2名である。



左、山形新幹線「こまち」

右、東北新幹線「やまびこ」



左、上越新幹線「とき」

右、東北新幹線「はやぶさ」



北陸新幹線「かがやき」

まだ、時間が早すぎたので（余裕を持った集合時間の設定）、トイレや昼食用のお弁当の準備に自由時間とし、10:10 再集合とした。僕は、菊地さんにことわりを入れ、新幹線の写真を撮るために先にホームに行くことにした。6歳の孫(男の子)が新幹線を大好きなので、今回の「かがやき」を含め、東北新幹線の「つばさ」「こまち」「はやぶさ」、上越新幹線の「とき」などが撮れればと思った次第。運よく、何枚か目指していた写真が撮れたので、それを見せて喜んでくれるかが楽しみである。

10:25 分頃我々が乗車する北陸新幹線「かがやき 509 号」が入線、発車時刻ギリギリの10:30 に乗車し、それぞれの座席に着くと同時に発車した。12:40 に富山駅に到着予定だ。隣になった方々とおしゃべりをしながら、しばらくすると朝食が早かったのと、今夜の夕食時刻が16時からと早いので、買ってきたお弁当を広げ食べ始める。食べ終わると、もう11:30だ。あと約1時間余り、またおしゃべりを続けたり、少しうつらうつらしたりしながら、予定通り富山駅に到着。大宮からの4名と名古屋からの1名も無事合流できた。

富山駅は、南口が観光バスの乗降ができないため、地下道を通って北口に移動しなければならないのだが、これがやけに遠くて、年配者グループにとっては何とかして欲しいと願うものである。お天気は少し薄日が漏れる曇りで、『おわら風の盆』までは何とかもってくれそうだ。北口から、13時に南砺観光交通の小型の観光バスに乗車し、最初の目的地である高岡市の『高岡山 瑞龍寺』に向かって出発。



高岡山 瑞龍寺の総門
これは、重要文化財

13:50 駐車場に到着。徒歩で、お寺に向かってしばらくすると正面に重要文化財である壮大なお寺の総門が見えてくる。このお寺は加賀前田家2代目当主の前田利長公の菩提寺として知られる曹洞宗の名刹。3代目当主前田常長によって建立されたそうである。総門、山門、仏殿、法堂の主要伽藍を一直線上に並べ、禅堂と大庫裡を左右対称に配置し、この周囲に回廊をめぐらせた禅宗様式の厳肅で整然たる伽藍構成。特に山門、仏殿、法堂は寺院建築の傑作として富山県内では唯一の国宝である。

我々のグループには、青井洋一さんというガイドさんがつ



瑞龍寺伽藍配置図
配置が人体に例えられている

いて、お寺を案内してくれる。やはり個人的に来て、拝観するのは大違いで、いろいろ持っている蘊蓄を披露してくれるのはありがたい。想像していたより、立派なお寺で、参道の左右に配された白砂利とのコントラストがまた良かった。



瑞龍寺山門（国宝）
白砂が見事なコントラスト



日本三大大仏の高岡大仏
日本一美男と言われる阿弥陀仏

約 40 分で拝観を終了、高岡大仏に向かう。ガイドの青井さんにはここまでお付き合いいただけるそうだ。約 10 分で高岡大仏に到着。この大仏は奈良、鎌倉と並ぶ三大大仏のひとつで、青井さんによると現在のは 3 代目だそうだ。初代は 1745 年に木の大仏で建立されたが、1821 年の大火で焼失、2 代目は 5m 弱の木の大仏でこれも 1900 年(明治 33 年)の火災で焼失、そして現在の 3 代目は 1907 年(明治 40 年)から 26 年の歳月をかけて 1933 年(昭和 8 年) 11 月に建立され、7m43 cm と奈良の大仏の約半分の高さではあるが、地元の銅器製造技術を寄せ集め、火災にも強い日本一美男と言われる阿弥陀仏である。中に入れる台座には、13 枚の結構どぎつい仏画が描かれている。

15:20 バスに戻り、ここでガイドの青井さんとはお別れ。『おわら風の盆』の腹ごしらえのため、射水市中新湊の「石松寿司」に向かう。



「石松寿司」のお寿司
富山湾寿司の代表作

16:00 「石松寿司」で富山湾寿司をいただく。富山湾は海が港から急に深くなる地形から 500 種類の魚介類が獲れ、鮮度も高いことから「天然の生簀」とも呼ばれるそうだ。(紀州の菊地さんからのネタ) 店主とスタッフの家族の方々も気さくで親しみのある対応で感じが良く、お寿司の内容についても一応説明があったが、忘れてしまった。マグロなどの赤身のものがなく、どちらかというと白身の肉厚のネタが多かったが、一緒に注文した生ビールとも相性が良く、また付出しの白エビの和え物、お吸い物もとてもおい



八尾町内の銀行
景観を壊さない配慮がある



諏訪町通り
日本の道百選通り

展示館は、もう閉館していたため、残念ながらそこから引き返すことに。帰りは、日本の道百選通り(諏訪町通り)を歩いたが、さすがに風情有あり、ここでおわらの町流しを見ることができたらと思わせる通りである。

18:40 演舞場(八尾小学校)に入る。小学校の校庭に舞台がしつらえてあり、折り畳みのベンチ椅子に座っての見物だ。A 指定席(3,600 円)の席で、ステージから 19 番目の列(最後列は 50 列)でほぼ左端で見えやすい席だ。カメラを準備して始まるのを待つ。(指定席はトータルで 4,500 席)

この「おわら保存会」には 11 の支部があり、その支部ごとにそれぞれ衣装や踊りなど工夫されており、比べてみると楽しみが増すそうだ。今日の演舞場では、5 支部が 20 分の持ち時間で踊ることになっている。



女踊りと地方(じかた)衆



男衆の「案山子踊り」

しかった。2,600 円のものだそうだが、回転寿司の常連の感想としては、上等の部類であろう。

16:30 バスに戻り、いよいよ越中八尾『おわら風の盆』へ。お天気は大丈夫そうだ。

小雨は決行だが荒天の場合は中止で、小雨でも傘の使用は禁止ということなので、どうしても降らないでほしい。

17:35 駐車場に到着。ここから歩いて踊りが披露される演舞場(八尾小学校)まで向かうのだ。井田川に架かる禅寺橋を渡り、その先の石垣に沿って急な上り坂を上り、街中に入るとお祭り一色で人通りも半端ではない。普段 2 万人の人口がお祭りの 3 日間の期間中延べで 20 万人になるという。演舞場での踊りは 19 時開始だが、18 時に現地に着いてしまったため、時間つぶしに街中を散歩することにした。通りにある 2 つの銀行は町の景観に合わせて町屋風の建物だ。おわらを踊っている人形の店を覗いたり、飲食店の出店でホタルイカの燻製を試食したりしながら曳山展示館まで歩いた。



下新町の舞台踊り



下新町の町流し

定刻になり、まず最初に天満町支部の地方(じかた)衆(唄、囃子、三味線、太鼓、胡弓)が登場し始まった。その独特の調子に合わせて、目深に笠をかぶった男女の踊り手が登場し、さらに見せ場をつくる。「地方衆と踊り手の調和。その美が『おわら風の盆』の最大の魅力だ。」といわれているそうだが、まさにその通り。本当に美しい。そして胡弓の何とも言えないあのおやかな音にはうっとりさせられる。男踊りの、案山子みたいにピタッと決まるのも見応えがある。続いて、東町支部、諏訪町支部、鏡町支部が演じるが、舞台の踊りだけではなく、やはり町流しの踊りを見たいのだ。それで、この舞台が跳ねる前 20 時半過ぎに、僕だけ先に町に向かった。パンフレットに書いてある支部の町流しタイムを参照しながら、西町支部へ向かうが、すでに人通りが多すぎて見るできない。

仕方なく、今町支部に向かうが、ここは聞名寺での舞台踊りであったため、さらに下新町支部に向かうと、ちょうど八幡社というところで舞台が始まる場所であった。空いていて、砂かぶり状態だったので、間近で見ることにした。15 分ほど演じたあと、これから町流しをするというので、期待して待った。約 10 分後、通りに整列し、踊り衆を先頭に、地方衆が後尾について町流しが開始だ。やはり『おわら風の盆』は町流しのほうが風情があり、見物人と一体感が出るので良いような気がする。



砺波ロイヤルホテルのツイン
ルーム

そうこうしているうちに、10:20 の集合時刻が迫ってきたので、集合場所の駐車場に戻ったが、ここからバスが出発するまでが一苦労なのであった。地元の若者が整然と交通整理をしてくれているのだが、とにかく団体の観光バスで来ている観光客が多いので、われわれが出発できたのは約 30 分後の 10:55 であった。そして、ほぼ予定通り 11:30 に宿泊する砺波ロイヤルホテルに到着したのだ。

バスの中で部屋番号のカードが配られたので、フロントでチェックインの手続きをしないで部屋に直行し、すぐに浴衣に着替え、入浴後のビールを楽しみにしながら 25 時まで開いている大浴場へ向かう。このホテルの大浴場の温泉は、「越中となみ野温泉」でナトリウム・塩化物・炭酸塩素塩泉ということだが、肌がすべすべして気持ち

良い。露天風呂も少しぬるめでゆっくり浸かっていられる。エレベーター前の自販機でビールを買おうと千円札を持って行ったが、その自販機は 100 円硬貨しか使えないという。仕方なくまた部屋に戻り、硬貨を持って自販機へ。それにしても 350mlのビールが 400 円と高いのにはびっくりした。宿泊客を相手にしているのにどうしてなのかなと疑問を抱きつつ、のどの渇きには負けて 1 本購入し、一気に飲み干した。やはり高いビールは美味しいみたい。明日の集合時刻が 9:00 で朝食バイキングが 7:00 開始なので、6 時に目覚ましをセットし就寝。



砺波ロイヤルホテルの朝食バイキングの一部

目覚ましで、6 時に起床。歯を磨いて大浴場の温泉に入る。出発の準備をして、大いに期待をしながら朝食バイキングの会場に向かう。普通リゾートホテルは、和食が美味しいと言われているので、和食中心に選んだ。ドリンクはグレープフルーツジュースと牛乳、生野菜サラダ、焼き魚、煮物、だし巻き卵、蒲鉾などを少しずつお皿に盛る。サラダは、レタスとみず菜とポテトサラダだけでトマトもキュウリもないし、煮物も里芋が固かったり、味つけもいまいちで、ちょっと期待外れ。デザートフルーツも淋しかった。さらにびっくりしたのが、食べた食器をセルフで下げてくれとのこと。リゾートホテルでは、ありえないと思うのだからいかなものか。

予定通り 9 時に集合し、バスで五箇山相倉に向かって出発。

10 時過ぎに駐車場に到着。この集落の真ん中にある「まつや」という茶店で昼食なので、11:30 現地集合とする。

この『相倉合掌造りの集落』は国の指定史跡であり、また「白川郷・五箇山の合掌造り集落」として 1995 年 12 月ユネスコの世界遺産一覧表に文化遺産として登録されたそうだ。

パンフレットによると、この相倉には 23 棟の合掌造りが現存し、ほとんどが約 100~200 年前のものが多く、古いものは 400 年前のものもあるそうだ。屋根の勾配は急で 60 度、断面は正三角形に近く、つまり雪が滑りやすい形。この屋根を支えるのは、根元の曲がったチョンナと呼ばれる太い梁で斜面に生育した自然に曲がったナラを用いる。また、合掌の組み立てには一切釘は打たず、縄とネソと呼ばれるマンサクの木を使うという。屋根の葺き替えは 15~20 年ごとに行うそうだが、ちょうど茶店「まつや」の前の建物で作業中であった。急勾配なので慎重に作業を進めていた。この合掌造りは、雪深いという厳しい自然に対応する強固な造り、さらに生活の場と生業の場をひとつにした合理的な建築で、人々の生きる知恵が生んだ偉大な発明だという。

この地域には、現在約 60 人が生活しており、この集落を守るため見学者には、次のような「お願い」をしている。

- ① 集落内は禁煙です。(茅葺屋根は非常に火に弱い。タバコのポイ捨ては厳禁。)
- ② 屋敷内、田畑、あぜ道など生活範囲へは入らない。(住民のプライバシーの尊重。)
- ③ 住民の車が通行します。道を譲ってください。(集落内への一般車の進入は禁止。)
- ④ 早朝と夕暮れ以降の見学はご遠慮ください。(住民の生活を守るため。)
- ⑤ ゴミは持ち帰りましょう。(美しい自然景観・文化財をゴミ公害から守るため。)

当然守らなければならないことですね。



五箇山・相倉集落の全景

バスを降り最初に向かったのは、集落の全景が見渡せる撮影スポットだ。上り坂になるが、5 分程度で行くことができる。さすがにご推奨の場所だけあって、左の写真のとおり絶景である。ここから時間内に集落を回らなければならないので、パンフレットにある名物スポットを目指すことにする。最初に茶店「まつや」を確認のあと、廿日石(分かりづらい)、地主神社、相念寺(お寺には見えない。



相倉集落の茶店「まつや」

普通の合掌造りの家。)、を回った。その後、「夫婦ケヤキ」という標識が見えたので、行ってみることにした。約 10 分とあったので軽い気持ちで向かったが、結構急坂で、ちょうど日が照って暑くなっていたので、そこまで行くともう汗びっしょり。一応「夫婦ケヤキ」を確認し、再度集落に降りる。そこから、相倉伝統産業館、相倉民俗館を外からだけ見学、原始合掌造り、天狗様の足あと(人間と変わらない大きさ。)、和紙作りの家を急いで回り、集合時刻に「まつや」に到着。



茶店「まつや」の名物料理

「まつや定食」(1,650 円)

奥の団体用の座敷に通されたが、座敷用の椅子の準備があり、高齢者には大助かりである。テーブルの上には、ここの名物の「まつや定食」(1,650 円)が配膳されていた。おいしそう。とりあえず、「夫婦ケヤキ」の往復でたっぷり汗をかいたので、生ビールを注文し一気飲みしたが、他の同行者は誰も注文していないのだ。(ちよつと恥ずかしい。)
「まつや定食」は五箇山の新鮮な野菜や郷土料理を使った料理だとのこと。山菜そば、五箇山豆腐(堅い)、山菜天ぷら、山菜郷土料理、煮物、おにぎり、漬物、デザート(スイカ)が並んでおり、見た目も豪華で



源「ますのすし」売店

ヘルシー。ただ、高齢者にとってはボリュームがあり、僕もごはん系が残ってしまったので、パックをもらって持って帰ることにしたのだ。今回のように、このような自然があふれた合掌造りの建物の中で食べたランチは最高である。

バスに戻り、12:30に出発。いよいよ最後の見学先の「源 ますのすしミュージアム」である。

13:30に到着しさっそく「ますのすし」の試食をしたが、やはり美味しい。家族からお土産にと頼まれているので、帰りに買っていこう。

ここ「源」が駅弁を始めたのが、約100年前の1912年(明治45年)で、当時は富山の名物と言えば「あゆずし」だったそうだが、「鱒寿司の美味しさを、富山を代表する食に育てたい」という源一族の想いから富山駅弁「ますのすし」が誕生したとのこと。

食材になる「鱒」は、雪解けとともに神通川を遡ってくる「桜鱒」。名前の由来は、桜の咲くころに故郷の川に戻ってくるからという説や、身の色が美しい桜色をしているからという説など、諸説あるらしい。そして、この「桜鱒」は、川魚である「ヤマメ」が海で大きく育ったものだから。



中川一政画伯デザインのパッケージ

見学コースを奥に進むと、スタッフがお弁当の丸い箱に笹をセットしている工程を見学したが、手作業で10枚の笹をきれいに整然とたった数秒でセットできるのは見事というほかはない。「源」では、駅弁に竹と笹を使用しているが、ここでは非常に繁殖力が強く、既存の植生を破壊するといわれる「孟宗竹」を使用しているそうだ。この「孟宗竹」を利用しながら、竹林を定期的に伐採したりして環境及び生態系の保全に貢献しているとのこと。また、「ますのすし」のパッケージも環境に配慮し、非常にコンパクトにできているし、パッケージの絵と書は中川一政画伯(文化勲章受章者)によるものだそうだ。

もっと見学していたかったが、14:10の集合時刻が迫ってきたので、急いでお土産を買わなければならない。名物の「ますのすし」(@1,400円)と昆布が入っている蒲鉾を買い、バスに向かおうと思ったら、出口のところで可愛い女性のスタッフがお酒の試飲を勧めていたので、ちょっとだけ立ち寄り、試飲をさせてもらった。



ミュージアム内の苗加屋の売店

そしたらこれがおいしいお酒(ちょっと濃厚な感じ)で、あまり普段たしまない妻でも飲めそうと思い、衝動買いをしてしまった。因みに、そのお酒は、富山県砺波市の若鶴酒造の「苗加屋(のうかや)・純米吟醸・琳赤(りんのあか)」(@1,600円)で無濾過生原酒のため、冷やしたものを発泡スチロールの箱にきちんと包装してあるのだ。

こんなことで少し遅れてしまったが、バスで富山駅に向かって出発。

富山駅に余裕を持って、少し早く着いたので、お土産の追加購入をしたりして、時間を調整。名古屋に帰る1人とここで別れて15:36発の北陸新幹線「はくたか570号」に乗車する。東京到着は、18:12で所要時間は2時間36分、「はくたか」は「かがやき」と違い、各駅停車なのだ。

予定通り東京駅に無事全員トラブルもなく到着。天候もまずまずだったし……。このようなイベントでは、同行した方々とのお互いの親睦が図られ本当に楽しかった旅でした。この旅を企画し案内までしてくれた紀州鉄道・オーパスワン・ツアーコンシェルジュの菊地さんに感謝感謝である。

また、さらに楽しい旅に連れて行ってくださることを期待してやまない。

(文責: 日本リゾートクラブ協会・今泉陽一)